

9月1日は防災の日です。

今年の夏は神戸に限って振り返ってみると、目立って大きな台風の被害もなく、今のところは「災害」という観点からいくと比較的落ち着いた状態で過ごすことができているのではないかな、と思います。しかし、そのようなときであるからこそ翻って、いつやってくるか分からない「災害」に対する心構えをしておく絶好のチャンスと考えることもできるのではないのでしょうか。

「災害」と一口に言っても様々な種類がありますが、火災であれ、地震であれ、いつやってもすぐに対応できる準備を、日ごろからしておくことが大切だと思います。神戸市で使用している道徳の副読本である「しあわせはこぼろ」の中に、「ひなんリュックを作ろう」という低学年向けの教材があります。この教材を使って学習を行うと、子どもたちはリュックの中に入れるべきものは何なのか、本当に必要になるものは何なのか、真剣に考えるようになります。直接大きな災害を体験したことのない子どもたちですが、このような学習を通して少しでも災害自体を身近なものとしてとらえ、意識を高めてくれれば、と願います。

今年は少し時期が遅くなっていますが、9月7日（水）に、消防署や地域の防災福祉コミュニティとの共催で、防災訓練を行います。この日は神戸の1・17とともに、防災全般について体験・学習する大切な時間を過ごすこととなります。初めに避難訓練を全校生で行い、その後に6年生を対象に防災訓練を行います。火災による煙体験、消火活動、救出搬送訓練などが予定されています。各訓練では星陵台ふれあいまちづくり協議会防犯防災部、苔谷公園コミュニティセンター、舞子台ホームの方々、垂水消防署の隊員の皆さんが、丁寧に指導にあたってくださいます。普段の生活の中では経験することのない内容だけに、子どもたちにもこの機会を活かして防災に対する意識をしっかりと高めてほしいと思います。

（防災担当 大西 英史）